



BASS STATION

ANALOGUE MODELLING
SYNTHESIZER PLUG-IN

USER MANUAL



 **novation**
in music, anything is possible.

日本語マニュアル

はじめにお読み下さい

本マニュアルでは、BassStation の機能、および主な使用方法を解説します。各章の記述、および画面は BassStation 1.0 を元に行っているため、今後のマイナーバージョンアップによっては画面構成が異なることがありますので予めご了承下さい。仕様変更などは予告なく行われることがあります。

INDEX

INTRODUCTION	5	APPENDIX	30
主な仕様.....	5	ファクトリープログラムリスト.....	30
最低動作環境.....	5	MIDI コントローラーマッピング.....	31
インストールの手順 - Apple Macintosh.....	6		
インストールの手順- Microsoft Windows.....	6		
BassStation をトラックにインサートする.....	6		
シリアル番号の入力.....	7		
サウンドカードの設定.....	7		
GETTING STARTED	8		
マニュアルの使用方法.....	8		
BassStation の使用.....	8		
プログラムの選択.....	8		
サウンドのエディット.....	8		
コンペア機能の使用.....	9		
プログラムの保存.....	9		
プログラムに名前をつける.....	10		
保存したバンクをロードする.....	10		
ロードと保存についての注意.....	10		
HOW TO CONTROL WORK	12		
BassStation メインパネル.....	12		
オシレーター.....	12		
フィルター.....	14		
アンプリファイア/エンベロープ.....	16		
ローフリクエンシーオシレーター(LFO).....	19		
マスターセクション.....	20		
コントローラーセクション.....	22		
プログラムマネージメント.....	23		
MIDI 受信.....	24		
BassStation キーボード.....	24		
終わりに.....	25		
SETUP PANEL	26		
セットアップパネル.....	26		
モジュレーションホイール/ピッチベンド.....	26		
アフタータッチ.....	27		
ブレス.....	27		
プリファレンス.....	27		
メモリー.....	28		

Novation BassStation ソフトウェアシンセサイザーをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
 BassStation は、バーチャルアナログモノシンセで、既存の BassStation や BassStation Rack シンセを
 Mac/Win 用プラグインソフトウェアとして再現させたものです。BassStation は、Novation の”リキッドアナロ
 グ”シンセエンジンを搭載しており、濃厚なサウンドを作り出すクリエイティブツールとしては、多岐に渡る可能
 性を秘めているといえます。プラグイン版は、音作りに欠かせないコントロールを網羅した単純明快なフロント
 パネルインターフェイスを用意しています。”BassStation”と呼ばれてはいますが、単なるベース音に留まらず、
 2 基のオシレーターから紡ぎ出されるサウンドは、広範囲にわたるアプリケーションが考えられます。さらに、
 CPU リソースへの負担も軽減されています(パフォーマンスは CPU 速度に依存)。

主な機能

- シンク可能な 2 基のオシレーター
- 12、24dB/Oct の ”リキッドアナログ”レゾナントローパスフィルター
(12dB/Oct 設定では、TB303™フィルターをエミュレート)
- シングル/マルチトリガー可能な 2 基のベロシティセンシティブ ADSR エンベロープジェネレーター
- マルチウェーブ、MIDI シンク可能な LFO
- ポルタメント
- ホストシーケンサー用のマルチインスタンス(※)
- ハードウェア BassStation、BassStation Rack とのデータ共有(インポート/エクスポート)
- ハードウェア BassStation のノブパネルを完全エミュレートした使いやすさ
- 100 ファクトリープリセット
- ベロシティセンシティブなキーボード

(※)インスタンスの数はコンピューターのCPU速度に依存します。

最低動作環境

オペレーティングシステム - PC

Windows 98SE - 98ME

Windows 2000 (Service Pack 3)

WindowsXP

ハードウェア

Pentium III 1GHz (or equivalent Athlon)

256MB RAM or more

ホストシーケンサー

LOGIC V5.5

SONAR 1.3.1 (minimum) and a suitable VSTi > DXi adapter. (e.g., DirectiXer 2.3)

CUBASE SX Version 1.05.58

オペレーティングシステム- Apple Macintosh

MAC OSX V10.2.4

ハードウェア

450MHz G3 / G4

256MB RAM

ホストシーケンサー

LOGIC V 5.5、その他 AudioUnits 対応製品

インストールの手順 - Apple Macintosh-----

同梱されている CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに挿入します。'BassStation(バージョン番号).dmg' というファイルをダブルクリックします。すると別のウィンドウが開きます。ここには以下の 3 種類のインストーラーが収録されています。

- I BassStation(バージョン番号)AU.....AU プラグイン(モノラル版)
- I BassStationStereo(バージョン番号)AU.....AU プラグイン(ステレオ版)
- I BassStation(バージョン番号)VST.....VST プラグイン

これらの中から、必要なフォーマットのファイルをダブルクリックしてインストーラーを起動してください。なお、BassStationStereo は、GarageBand のようにモノラルのプラグインが使用できないホストアプリケーションのためのカスタマイズバージョンです。フォーマットを調整してあるだけです。パンやステレオに関するコントロールはありません。Logic を始め多くの DAW ではモノラル版が使用できるため、通常はモノラル版を使用してください。

インストールに関しては画面の指示に従ってください。

注: BassStation は、OSX 環境下でのみ動作いたします。OS9 やそれ以前の OS では動作いたしませんのでご了承ください。

インストールの手順 - Microsoft Windows-----

同梱されている CD-ROM をコンピューターの CD-ROM ドライブに挿入し、BassStation(バージョン番号).exe というファイル名のインストーラーを起動してください。後はスクリーンに表示される指示に従ってインストールを行ってください。「Destination Folder」の設定画面では、ホストアプリケーションによって決められている VST プラグインフォルダを指定してください。

BassStation をトラックにインサートする-----

BassStation を任意のトラックにインサートするには、お手持ちのシーケンサーのユーザーマニュアルを参照してください。この部分に関しては、シーケンサー毎に作業工程が異なります。

シリアル番号の入力

ホストアプリケーションで BassStation を起動すると、初回起動時に User Name と Serial Number を入力する画面が表示されます。User Name には使用者の名前を、Serial Number には英文マニュアルの表紙裏側に記載されているシリアル番号を入力してください。入力したら UNLOCK ボタンをクリックします。



サウンドカードの設定

BassStation 使用の際、サウンドカードの必要最低限の設定は"44.1khz/16-bit"です。もちろん、BassStation はこれ以上の設定でも十分動作いたしますが、コンピューターに不必要な負担をかけることになりかねません。ただし、44.1kHz/16-bit 以下の設定では、音質劣化に関する問題が起こりうることをご考慮ください。

マニュアルの使用法

このマニュアルは Introduction, Getting Started, BassStation のパネルの詳細な説明を行う複数の章で構成されています。きちんと理解するためには章ごとに順番に読み進めていくとよいでしょう。マニュアルで使用されているスクリーンショットは Mac OSX 起動時のものを主に使用しています。WINDOWS で使用する際にマニュアルのスクリーンショットと若干違うように見えるところもあるかもしれませんが、使用方法は全く同じものです。

BassStationの使用

アナログシンセと VSTi / Audio Unit プラグインに精通している方ならすぐにお使いいただけると思います。パラメーターの重要なものはほとんどメインパネルにあり、他のものは SETUP ページにあります。詳しくはマニュアルの後半をご覧ください。

プログラムの選択

BassStation の感じをつかむには最初にファクトリープリセットを触ってみるとよいでしょう。BassStation はメモリー一杯に 100 個のプログラムが保存されている状態で出荷されています。これらのプログラムはウインドウの左側にある LCD の下の PROGRAM up/down ボタンをクリックすることで選択が可能です。これらを通してシンセベースやリードラインなど幅広いサウンドを聴くことができます。コンピューターのテンキーでサウンドを選択するには、SETUP ページの NUMPAD PROGRAM SELECT プリファレンスで機能を有効にする必要があります。

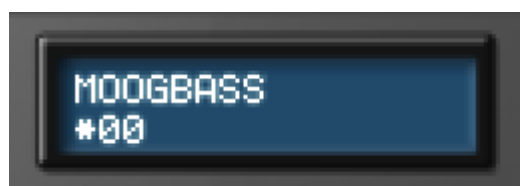
注意: シーケンサーによっては再生、停止、ロケート機能がテンキーにアサインされている場合があります。シーケンサーによってはテンキーの機能を目的に応じてアサインし直すことができます。

サウンドのエディット

BassStation のパネルはハードウェアの BassStation のパネルと同じようにエディットを行うことができます。まずマウスを目的のコントロールの上にもっていくとパラメーターとその値が表示されます。



次にコントロールをクリックして上下に動かしてください。コントローラーが動いて値が変化します。初期状態からパラメーターが変化すると LCD で表示されているプログラムナンバーの横にアスタリスクが表示されます。



サウンドをメモリーに保存するとアスタリスクが消えます。スイッチ類はクリックするだけで ON/OFF が切り替えられます。また、スライドさせて目的の設定にすることができます。下の例では RANGE が 8、WAVE がスクエアに設定されています。



LFOには MIDI CLOCK SYNC を選択するためのドロップダウンメニューがあります。



この場合選択部をクリックホールドした後ドラッグ上下して設定したい値になったらマウスを離してください。
注意:ホイール付きのマウスをお持ちであれば、カーソルをノブやスライダーの上に持って行ってクリックせずにホイールを動かすだけで値を変化させることができます。ドロップダウンメニューでも同様に使うことができます。

コンペア機能の使用

サウンドに変化を与えた後オリジナルと聴き比べをする場合に COMPARE 機能を使います。



例えばパネルのノブを動かしたりした後で COMPARE ボタンをクリックホールドしてみてください。すると保存されていたオリジナルのサウンドを聴くことができます。エディット後の音色を聞きたい場合には COMPARE ボタンを離して下さいこのように変更が有効であったかどうかを確認することができます。

プログラムの保存

サウンドを変化させた後にメモリーにサウンドを保存しておくことができます。オリジナルファクトリープリセットを消したくない場合はユーザーロケーションの41～99番に保存することをおすすめします。また、100個のファクトリープリセットを全て上書きすることも可能です。これらのファクトリープリセットを書き換えてしまった場合レストアでのみ元に戻すことができます。実際に保存を行う際は LCD の横にある WRITE ボタンをクリックしてください。ディスプレイに保存先が表示されます。



すでにあるサウンドを上書きしたい場合 CONFIRM をクリックするだけで現在の場所に保存されます。

注意:保存先は常に現在選択されているプログラムのナンバーが最初に表示されるように設定されています。大切なサウンドを上書きして消さないように気をつけてください。

違う場所にサウンドを保存したいのであれば PROGRAM up/down ボタンをクリックして目的の場所を設定し、CONFIRM をクリックしてください。

WRITE 操作をキャンセルしたい場合、もう一度 WRITE ボタンをクリックしてください。

プログラムに名前をつける

BassStation ではプログラムの名前をつけかえることも可能となっています。自分で新しい音を作った際に非常に便利です。名前を変更するには、LCD をクリックしてメニューを表示させます。



これをクリックして名前をつけかえる画面を表示させます。



名前を打ち込んで RETURN キーを押してください。

保存したバンクをロードする

ほとんどのホストシーケンサーでサウンドバンクのロードと保存ができます。ご自分のライブラリーを作る際に非常に便利です。例えば 'Vintage' シンセエミュレーションのサウンドばかりを作った場合、このバンクに 'Vintage' という名前を付けていつでも BassStation に呼び戻すことができます。このように BassStation で独自のライブラリーを構成していくことができるのです。また、インターネット上でバンクをダウンロードして BassStation に読み込ませることも可能です。

バンクの保存とロードに関してはお持ちのシーケンサーマニュアルをご参照ください。

注意: 先ほどサウンドのロードと保存について述べましたが、シーケンサーによっては用語が異なる場合がございますのでご注意ください。

ロードと保存についての注意

シーケンサーにロードと保存を行う場合、通常3つの方法が考えられます。

まず 1 つ目がソングの保存です。これはレコーディングした素材だけでなく、BassStation の現在の設定(他のプラグインも同様)まで保存されます。この後でソングをロードすると当然 BassStation のサウンドもリコールされます。またその後でサウンドをエディットしてしまっても、保存せずに開きなおせば前のサウンドがリコールされます。

次に個々のサウンドを BassStation の内部メモリーに保存するという方法があります。この場合 BassStation にサウンドが直接保存されているため、BassStation を読み込みさえすればどのソングでもそのサウンドを使用することが可能になります。

また、サウンドを多く作っていった場合、これらをまとめてバンク(プリセット/セッティングなどシーケンサーによって用語が異なります)として保存することも可能です。さらにこのバンクはソングとは関係なしに BassStation にいつでもロードすることができます。例えばこの方法を使用すると、目的のサウンドが現在のバンクに見つからない場合、BassStation に別のバンクをロードすれば 100 個の異なるサウンドを聴くことができるようになります。

さらにシーケンサーによってはサウンドを 1 個単位で保存でき、さらに BassStation にロードすることができるものもあります。

ほとんどの場合、ソングに BassStation をインサートしてお好みのセッティングにした後、ソングのファイルを保存するだけで問題は無いはずですが、これによりソングをロードしたときに以前の BassStation のセッティングもロードされます。WRITE や SAVE / LOAD BANK などのオプションは主に自分のライブラリーを作る際に使用するものです。この違いを混同しやすいのでご注意ください。

BassStation メインパネル

BassStation のメインパネルは従来のアナログシンセサイザーのようにデザインされています。



デザインのベースは BassStation のキーボードバージョンになっています。1度でもシンセサイザーを使ったことのある方なら非常に親しみやすいものになっているはずです。

メインパネルにはサウンドをエディットする際に使用される全てのメインパラメーターがコントロールできるようになっています。また、各セクションの配置は代表的なシグナルフローのレイアウトになっています。各セクションに関しては順番に各章で説明していきます。

オシレーター

オシレーターは音程のあるウェーブフォームをジェネレートします。



それぞれのコントロールはオシレーターのピッチとウェーブフォーム、モジュレーションの反応の仕方を決定します。

OSC1 - MIX ノブ

2つのオシレーターのミックスバランスを決定します。左一杯振るとオシレーター1の音のみが出力されます。さらに中央にすると2つのオシレーターが均等にミックスされ、右一杯に振るとオシレーター2のみが出力されます。

OSC 1 - WAVE スイッチ

ノコギリ波、スクエア波、パルス波の選択をします。

OSC 2 - DETUNE ノブ

オシレーター2のデチューンをセント単位で設定します。右に一杯振った場合、基本ピッチよりも 96 セント高くなり、逆にすると 96 セント低くなります。各オシレーター間のピッチをわずかに変えることによりサウンドが豊かになります。ベースやリードサウンドはデチューンをわずかにずらすことで太い音になります。デチューンを大幅にずらすことで音色は大きく変化します。

OSC 2 - SEMI ノブ

オシレーター2のピッチを最大1オクターブ半音単位で上下させることができます。オシレーター2のピッチを特定の値に設定することで音楽的によい効果をもたらします。5に設定すると完全4度、7は完全5度、3は短3度、4は長3度、8は短6度、9は長6度という間隔になります。

OSC2 - RANGE スイッチ

オシレーター2の基本オクターブを設定します。レンジはフィートを参考にしています。これはオルガンのパイプに使用された従来の方法です。8に設定するとオシレーター1と同じ設定になります。

OSC 2 - WAVE スイッチ

ノコギリ波、スクエア波、パルス波の選択をします。

OSC 1 / 2 モジュレーション

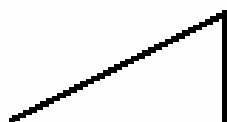
2つのオシレーターにモジュレーションをかけることができます。それぞれのオシレーターに対して同じコントローラーが搭載されています。

ENV ノブ

エンベロープ2からのピッチスweep量を設定します。コントロールをセンター(値0)にするとピッチの変化は起こりません。右に回すとエンベロープのアタックでピッチが上昇し始めディケイ、リリースで下降を始めます。左に回すとその逆の反応をします。

LFO ノブ

LFOでのピッチスweep量を設定します。ノブを中央に設定するとLFOからのピッチ変化は起こりません。右に回すとプラス方向でのピッチ変化が起こります。左に回すとその逆の反応をします。下図でLFOのノコギリ波でのモジュレーションを考えてみます。



LFO コントロールを右に回すとピッチはゆっくりと上がっていき突然下がります。左に回すとその逆の反応をします。



PULSE W ノブ

PULSE W ノブの機能は PWM スイッチの選択に依存します。MAN に設定された場合、PULSE W ノブはマニュアルでスクエア波のパルスウィズを設定することができます。

PULSE W ノブが中央の位置でスクエア波が選択されている場合、波形は完全なスクエア波になります。ノブを右左に回すことで間隔が狭くなりよく知られているパルス波に変化します。



パルス波は倍音構成が異なり、薄いオーボエのような音になります。

PWM が LFO に選択されている場合、パルスウィズをモジュレートするために用意された固定スピードを持つ三角波の LFO によってパルスの幅がモジュレートされます。モジュレーションのかかり具合を PULSE W ノブで設定します。ノブが中央にある場合効果は得られません。左右に振って初めて効果を得ることができます。これによりクラシック PWM サウンドになります。

ENV2 に設定するとエンベロープ2に従ってパルスウィズが変化します。クラビネットやハープシコードの音をダイナミックにするのに非常に効果があります。これはかなり長いアタックとディケイを使うと効果が明白になります。

フィルター

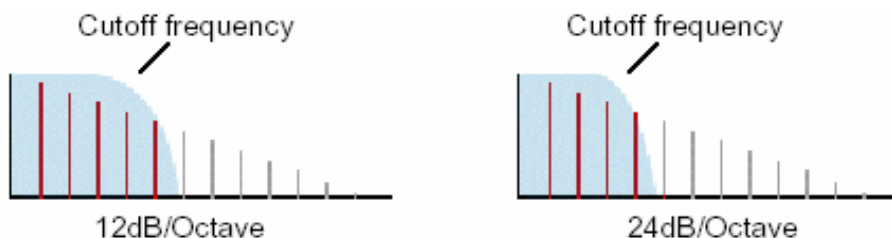
BassStation のフィルターはよく知られているローパスフィルターです。このフィルターのタイプは BassStation のようなベースサウンドに対し非常に音楽的で便利なものです。



SLOPE スイッチ

カットオフポイント以上の周波数帯域の消し具合を決定します。

12dB を選択した場合スロープが緩やかなので 24dB ほど高倍音をカットしません。

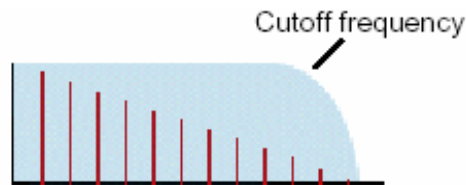


注意: 12dB フィルターは正真正銘 TB303 の "Bassline" をエミュレートしています。カットオフフリケンシーはノートのパッチに関わらず一定になっています。これにより BassStation は TB303 の "Bassline" を非常に効率

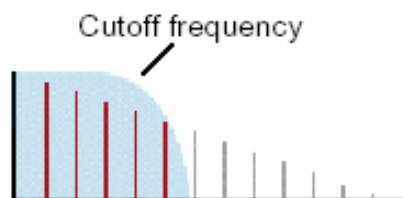
的にエミュレートすることができるのです。

FREQ ノブ

フィルターのカットオフ周波数を設定します。右一杯に振るとフィルターが完全に開かれた状態になり、オシレーターによって作られた全周波数帯域がスルーします。



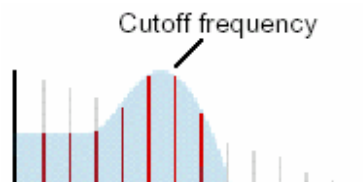
ノブを逆に回すにつれフィルターは閉じていき、高い方の倍音からカットを始めます。そして完全に回しきると完全に音が消えてしまいます。



注意: VOLUME ノブを上げてても音が鳴らない場合、フィルターが完全に閉じていることがよくあります。FREQ ノブを右に回してフィルターを開いてみてください。

RES ノブ

フィルターのレゾナンスを設定します。カットオフ周波数の周波数をブーストします。



シンセサイザーによって、このコントロールはエンファシス(特定の周波数を強調するため)として知られています。0ポジション(左一杯)に振られている場合何の効果もありません。右に回していくにつれゆっくりと強調を始めます。

右一杯に振り切るとフィルターはセルフオシレートを始め、新たなピッチが生まれます。

注意: ほんの少しでもフィルターにシグナルが入っていないとレゾナンスの効果はありません。シグナルがフィルターに入ってきていない場合セルフオシレートすることはできません。

BassStation で高いホイッスルサウンドができてしまった場合、ノブを右に回しすぎている可能性があります。このセルフオシレート効果無くしたい場合、ノブを左に回してレゾナンスを抑えてください。レゾナンスを増やすとアシッドベースラインやエッジの効いたサウンドに非常によい効果を与えます。

LFO ノブ

FREQ ノブで設定されたカットオフ周波数に対するエンベロープ2からの変化の量を設定します。

中央に設定した場合カットオフ周波数には何の変化も起こりません。

24dB に設定している場合、中央から右方向にノブを設定するとプラス方向のモジュレーションがかかるようになります。カットオフはエンベロープのアタックから上がり始め、ディケイ/リリースのタイミングで下がっていきます。中央から左方向にノブを設定するとこの逆の動きになります。

12dB に設定した場合、ENV コントロールはプラス方向の効果のみをコントロールします。左一杯に振られている場合うっすらと、また、右一杯に振られた場合かなり深くモジュレーションがかかることになります。

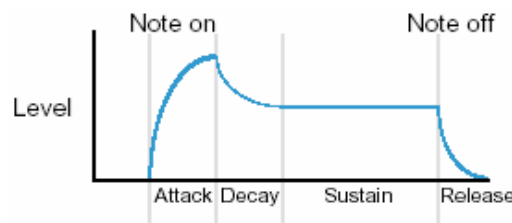
アンプリファイア/エンベロープ

エンベロープはサウンドがなっている間に様々な効果を与えます。エンベロープ1はサウンド中のボリュームをコントロールします。

エンベロープ2はオシレーターのパルスウィズ、フィルター周波数、オシレーターピッチといったシンセサイザーのサウンド要素をコントロールします。



これらのコントロールを使用してサウンドを変化させることができます。



ATTACK ノブ

発音を始めてからどのくらい早くエンベロープが最大値にまで達するかを設定します。左一杯に振られている場合が最も早く、右一杯の状態でも最大値に達するのに 20 秒かかることになります。アタックタイムを短くしたければノブを左に、長くしたければ右に回してください。

注意:アタックタイムが0に設定されている場合、エンベロープの上昇が瞬間的であるためにクリック音が発生する場合がありますが不良品ではありません。これは特定のサウンド(オルガンのキークリックなど)をつくるくさいに非常に便利です。もしこのクリック音の発生を避けたいのであれば、クリック音が鳴らなくなるまで微妙にアタックタイムを上げていってください。

DECAY ノブ

エンベロープが最大値に達した後、どのくらい早くサステーンレベルにまで落ちるかを設定します。左一杯

に振られている場合が最も早く、右一杯の状態でも最大値に達するのに 20 秒かかることとなります。ディケイタイムを短くしたければノブを左に、長くしたければ右に回してください。

SUSTAIN ノブ

キーボードを押さえている状態での、ディケイ後に鳴りつづける音量レベルを設定します。0に設定するとディケイ後に音が消えます。右に回していくにつれサスティーンレベルは上がっていき、振り切った状態で最大値に達します。

注意: サスティーンを最大に設定している場合、全く減衰しないためディケイコントロールは何の効果もありません。

RELEASE ノブ

キーを離れたあとでどの程度早くサスティーンレベルが0になるかを設定します。0に設定した場合がもっとも早く、左一杯に振られている場合が最も早く、右一杯の状態でもレベル0に達するのに 20 秒かかることとなります。リリースタイムを短くしたければノブを左に、長くしたければ右に回してください。

VEL ノブ

エンベロープがベロシティに対してどの程度反応するかを設定します。エンベロープ1では演奏の強弱によってどのくらい音量を変化させるかの設定を行います。エンベロープ2ではエンベロープ2によるフィルターの揺れ具合の量を設定します。また、エンベロープ2が使用されているオシレーターピッチやパルスウィズなど他のパラメーターも同様です。

ノブを左一杯に振った場合、BassStation のベロシティセンシティブティは無効になり、どんなにキーボードを強く叩いても何の変化もありません。右一杯に振った場合センシティブティが最大になり、キーボードを強く叩いたときにエンベロープが最大に開きます。

TRIG スイッチ

BassStation のトリガーオプションを選択します。オプションは SINGLE/MULTI/AUTO の3種類です。

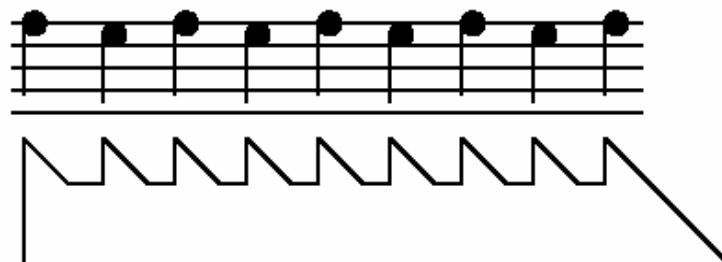
かつてのモノフォニックシンセはそれぞれ異なるトリガリングシステムを採用していました。Moog シンセの場合はシングルトリガーを採用していました。この場合エンベロープのアタック/ディケイが最初のノートでトリガーされますが、このノートを押しつづけて他のノートをさらに押した場合、アタック/ディケイはリトリガーされずサスティーンのみが変化します。



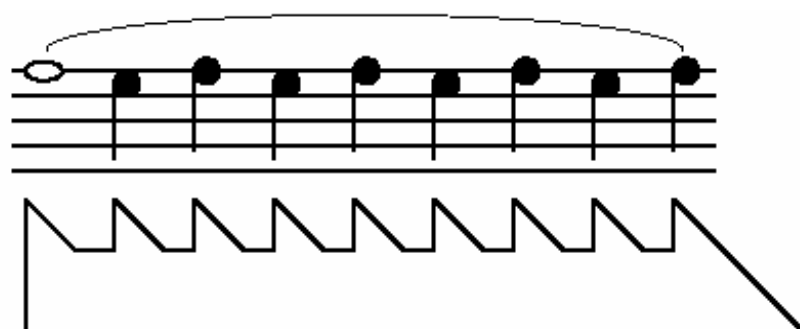
このトリガー方法は”本物”のモノフォニックインストゥルメントの演奏に非常に似通ったものです。フルートを例にとって見れば、フルート奏者は通常全てのノートに対して毎回タンギングを行いません。最初のノートの

みタンギングを行い、後は吹きつづけながらノートを変えていきます。つまり、最初のノートのみがアタックを持つことになるのです。これにより流暢なニュアンスが与えられます。

もちろんそれぞれのノートを別々に演奏すれば、アタック/ディケイはそれぞれのノートでトリガーされます。



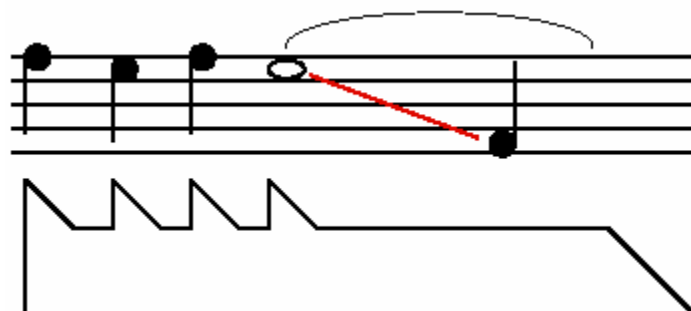
他のシンセ(ARP など)はマルチトリガーを採用していました。この場合エンベロープのアタック/ディケイは常に各ノートでトリガーされます。



このオプションは各ノートを明瞭に発音させたい場合に非常に便利です。

BassStation ではそれぞれのサウンドに対してシングル/マルチのトリガー方法を選択できます。

また、オートという他のトリガーオプションも選択可能です。オートを選択した場合、それぞれのノートは個別にトリガーされますが、ノートを押しつづけたまま他のノートを押すとスライドアップ/ダウンします。この場合アタック/ディケイはトリガーされません。このスライドの時間の設定は後述の PORTA コントロールで設定します。



この設定はフレットレスベースや TB303 のスライドエフェクト使用時などに非常に有効です。

ローフリケンシーオシレーター (LFO) -----

BassStationのLFOは規則的な電気変化をもたらします。これそのものを聞き取るには非常に低い音ですが、主にビブラート、パルスウィズ、フィルターカットオフといったサウンドの要素を修正コントロールするために使用されます。



SPEED ノブ

ローフリケンシーオシレーターのスピードをコントロールします。ノブの下にあるLEDの点滅がスピードを表しています。右に回すほどスピードが速くなります。早い設定はビブラートやトレモロ効果に向いています。遅い設定はパルスウィズの変化、遅いフィルタースイープや特殊効果などに最適です。

DELAY ノブ

ノートが発音を始めてから、選択されたLFOがどのくらい早くかかり出すかをコントロールします。左一杯に振られている場合選択されたLFOは即座にかかります。右に回していくとLFOがフェードインしてかかりはじめます。ノブのポジションによってフェードの時間が設定されます。これは遅れてビブラートをかけたい場合などに非常に有効です。

SHAPE スイッチ

LFO ウェーブフォームを選択します。

RDN ランダム波形です。SPEED ノブで設定したインターバルで次々とLFOのレベルがランダムで変化します。フィルターのカットオフにルーティングしている場合この波形を選択するとリズム的な効果が得られます。ピッチにルーティングした場合あまり音楽的な効果は得られませんが、コンピューターやマシーンサウンドによく使用されます。

TRI 三角波です。LFOのレベルがもっともスムーズに変化し続けます。ピッチにルーティングさせた場合、スピード設定によりビブラートやサイレン効果を生み出します。カットオフにルーティングするとワウ効果が生まれます。

SAW ノコギリ波です。LFOのレベルが徐々に上がっていき、突然0レベルにまで落ちます。カットオフにルーティングした場合リズム的なパルス効果を生み出します。また、ピッチにルーティングするとサイレン効果を生み出します。

SYNC

SYNC メニューで LFO のスピードとシーケンサーの MIDI クロックを様々なレートでシンクさせることができます。

Menu Item	MIDI Clocks	Synchronised to	Menu Item	MIDI Clocks	Synchronised to
OFF	–	Manual rate	8th D	18	8th Dotted
32nd T	2	32nd Triplet	4th	24	4th
32nd	3	32nd	2nd T	32	2nd Triplet
16th T	4	16th Triplet	4th D	36	4th Dotted
16th	6	16th	2nd	48	2nd
8th T	8	8th Triplet	1bar T	64	1 Bar Triplet
16th D	9	16th Dotted	2nd D	72	2nd Dotted
8th	12	8th	1bar	96	1 Bar
4th T	16	4th Triplet			

SYNC メニューが OFF に設定されている場合、LFO のスピードは LFO のスピードコントロールによって設定され、シーケンサーのテンポと関係なく走ります。

なんらかの SYNC を設定した場合、LFO はシンクで設定したレートで走ります。例えば 16th に設定した場合 LFO は1小節で 16 サイクルすることになります。すなわち1サイクルが 16 分音符に相当することになります。1BAR に設定した場合 LFO は1小節で1サイクルすることになります。

MIDI クロックにシンクした場合、LFO のスピードコントロールはグレーアウトになり機能しなくなります。



注意:ほとんどのシーケンサーは停止中に MIDI クロックを送信しません。このときに BassStation を演奏しても LFO はかかりません。

マスターセクション

パネルのもっとも左にあるこの部分が BassStation 全体に影響を及ぼすマスターセクションです。



VOLUME ノブ

オーディオアウトプットから出力されるアウトプットボリュームの設定を行います。ミキサーで歪まないように設定してください。

PORTA ノブ

ポルタメント (GLIDE/グライドとも言われます) は2つのノートのピッチスライドを滑らかにするエフェクトです。通常、演奏するとノートはピッチが即座に変わります。しかしポルタメントをかけると、PORTA コントロールで設定したレートでピッチが滑らかにスライドして変化します。これはフレットレスベースやトロンボーンなどといった楽器のシミュレートだけでなく、テルミンのエミュレートなどシンセサウンドにも最適です。このノブを0にするとポルタメントの効果はありません。ノブを右に回していくにつれ、次のノートのピッチに達する時間が長くなります。

注意: エンベロープの TRIG スイッチが AUTO に設定されている場合、単音をレガートで演奏した際のグライドタイムをコントロールします。

TUNE ノブ

BassStation のチューニングを ±50 セント変更し、他の楽器のチューニングに合わせることができます。

SYNC スイッチ

これは2つのオシレーター間のオシレーターシンクスイッチです。ON になっている場合より広いレンジの音作りが可能となり、とくに引き裂くようなシンクスイープエフェクトを作るのに最適です。

クラシックシンクスイープエフェクトを作るには.....

- 1 SYNC スイッチを ON にしてください。
- 2 オシレーター2のレンジを 4' か 2' に設定してください。
- 3 1.2オシレーター両方ともスクエア波にしてください。
- 4 MIX コントロールを右一杯に振り切ってください。
- 5 オシレーター2のモジュレーションセクションの ENV ノブを中央より右側に振って下さい。この際、オシレーター1にはモジュレーションが何もかかっていないことを確認してください。
- 6 ENV2 のアタックを0、ディケイを5、サステーンを0、リリースを0に設定してください。
- 7 FILTER FREQ を最大にし、レゾナンスを0に設定してください。

音を出してみてください。

きつめのフランジングエフェクトとは違った、独特の引き裂くようなシンクスイープサウンドが確認できるはずです。以下のコントローラーを変化させて試してみてください。

ENV2 DECAY / MIX / OSC2 ENV mod / OSC2 SEMI

コントローラーセクション

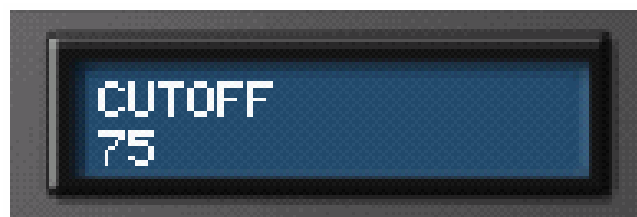
キーボードの左端にバーチャル LCD を含むコントローラーセクションが配置されています。ここにはピッチベンド、モジュレーションホイール、プログラム、オクターブの UP/DOWN キーがあります。

LCD

ここで選択しているプログラムの名前と番号を確認することができます。



さらに、マウスのカーソルをノブやスイッチの上に持っていくと、そのパラメーターの名前と現在の値が LCD に表示されます。



また、LCD は他の情報や機能などを表示することがあります。詳しくはマニュアルの関連事項のセクションをご覧ください。

PITCH CONTROLLER ホイール

これらはキーボードに装備されているピッチベンドとモジュレーションホイールと同じものです。本物と違うのはマウスで調整することが可能なところです。ここで注意していただきたいのはキーボードで実際にホイールを調整するよりもマウス操作のほうが優先されてしまうという点です。ホイールのグラフィックは外部キーボードからの操作でもリアルタイムでアップデートされます。

PROGRAM UP/DOWN キー

プログラムを番号順に一つずつ選択していくことが可能です。新規購入した際にこのボタンで一通り音色を確かめるとよいかもしれません。

注意: コンピューターのキーボードにあるテンキーでプログラム番号を入力してダイレクトにサウンドを選択することも可能です。詳しくはセットアップパネルの章をご参照ください。また、外部 MIDI キーボードでリモートコントロールすることも可能です。

OCTAVE UP/DOWN キー

オクターブ単位でサウンドをトランスポーズすることができます。

プログラクマネージメント

キーボードの上にある3つのボタンでセーブ関連を行います。

WRITE ボタン

エディットなどを行ったサウンドを BassStation のメモリーに保存することができます。このボタンをクリックすると LCD に以下のようなコメントが表示されます。



すでにあるサウンドを上書き保存したい場合には、CONFIRM ボタンをクリックしてください。現在選択されている場所に上書き保存されます。

注意:WRITE ボタンを押すと保存先として常に現在選択されているプログラムの場所が指定されます。ここで保存を行った場合オリジナルの音色が消えてしまうのでご注意ください。

オリジナルの音色を残すために保存先を違う場所にしたい場合は、PROGRAM UP/DOWN ボタンを使用して目的の場所を選択して CONFIRM ボタンをクリックしてください。

セーブをキャンセルしたい場合、もう一度 WRITE ボタンをクリックしてください。

プログラムの編集に関する注意

サウンドを選択したあとに何らかのノブを動かしただけでエディットが行われたこととなります。また、エディットを行った後で他のプログラムに切り替えると、エディットしたサウンドはデフォルトの状態に戻りエディット後のサウンドが失われてしまいます。しかしこの問題は SETUP ページの AUTO WRITE オプションを ON にしておけば解決できます。ON の状態ではエディット後に他の他のプログラムを選択するとエディットしていたサウンドが自動的に上書き保存されます。このスイッチはデフォルトでは OFF になっています。

CONFIRM ボタン

上記の通りです。セーブの確認の際に使用されます。

COMPARE ボタン

クリックホールドすることでオリジナルとエディット後のサウンドを聴き比べることができます。

MIDI受信

BassStation は MIDI 受信をしているかどうかのインジケータを搭載しています。MIDI 受信するたびにこのインジケータが光ります。



MIDI キーボードを弾いても LED が光らない場合は MIDI 受信に関して何らかの問題が起きている可能性があります。

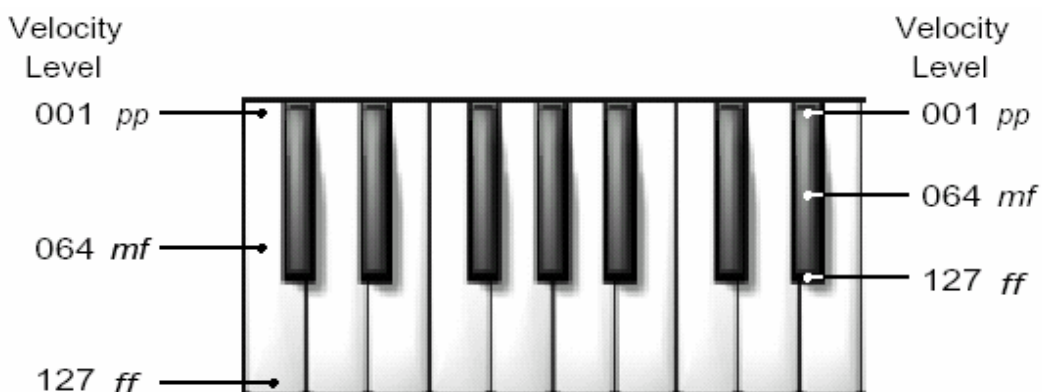
BassStation キーボード

BassStation には4オクターブのキーボードが搭載されています。Mac/PC に外部 MIDI キーボードを接続しなくても、本体のキーボードをクリックすることで音を出すことができます。



さらにこのキーボードはベロシティに対応しています。

キーボードをクリックする場所によってベロシティを変えることができます。キーボードの先端をクリックすると強いベロシティになり、根元では弱くなります。



何らかの理由で外部 MIDI キーボードがない場合、サウンドチェックの際に非常に便利です。

また、このキーボードは独自の機能を持っています。

キーボードのノートを押しながらコンピューターの SHIFT キーを押してマウスを左右に動かすとピッチベンド

効果、上下に動かすとモジュレーションホイール効果が得られます。マウスをピッチベンドとモジュレーションのジョイスティックのように使用することができます。

また、PC でのみの機能もあります。ノートを押して CTRL キーを押しつづけるとそのノートが伸びつづけます。これを使えば例えばノートをクリックして CTRL を押し、音が伸びつづける間にマウスでパラメーターを変更して音が変わっていくのを聴くことができます。また、CTRL を押し音が伸びている間に他のノートをクリックしてポルタメントを確認することができます。ご自分で試して自分なりの使用方法を見つけてみてください。

終わりに-----

これでメインパネルの説明を終わりにします。この章で知識を増やして目的の音をエディットして作ってってください。

次の章では重要ですがあまり使うことのない BassStation の機能について紹介していきます。

セットアップパネル

SETUP ボタンを押すと以下のパネルが表示されます。



右側半分くらいの画面が変わり、サウンドクリエイターの際にあまり使わないパラメーターや BassStation の操作全体に影響を及ぼすような重要なプリファレンスが表示されます。この SETUP モードはファクトリープリセットに戻すか、BassStation と BassStation Rack とのサウンドのインポート/エクスポートに使用されます。詳しくはこの後で説明します。

モジュレーションホイール/ピッチベンド



FILTER コントロールでモジュレーションホールがどの程度カットオフを開閉するかを設定します。

PITCH コントロールでモジュレーションホイールがどの程度2つのオシレーターに対してLFOをかけるかを設定します。

PITCH BEND_RANGE コントロールでピッチベンドホイールでのベンドレンジを設定します。レンジ設定は半音単位になっています。最大で 12 半音、1 オクターブになります。

アフタータッチ



これらのコントロールでアフタータッチがボリューム、フィルターカットオフ、LFO に対してどの程度影響を与えるかを設定します。

ENV コントロールでアフタータッチのボリュームに対する効果の深さ設定をします。

FILTER コントロールでアフタータッチのフィルターカットオフがどの程度開閉するかを設定します。

PITCH コントロールでアフタータッチの LFO に対する効果の深さの設定をします。

ブレス



上記のアフタータッチと同じパラメーターになっています。これらのコントロールでブレスがボリューム、フィルターカットオフ、LFO に対してどの程度影響を与えるかを設定します。

ENV コントロールでブレスのボリュームに対する効果の深さ設定をします。

FILTER コントロールでブレスのフィルターカットオフがどの程度開閉するかを設定します。

PITCH コントロールでブレスの LFO に対する効果の深さの設定をします。

注意: 上記のコントローラー設定はサウンドパラメーターの一部として保存されます。

プリファレンス



PREFERENCES スイッチで BassStation を使用する際の各種オプションを設定します。

POT CTRL スイッチ

BassStation のノブのコントロールタイプを2つから選択できます。LINER を選択した場合マウスを垂直方向に動かしてノブを回すことができます。ROTARY を選択した場合、ノブを回すようにマウスで円を描くとノブが回ります。

AUTO WRITE スイッチ

BassStation に外部からサウンドをロードした場合、メモリーに一時的に保存するか実際に BassStation のメモリーに完全に書き込んでしまうかをこのオプションで選択できます。

ホストシーケンサーの LOAD PRESET(シーケンサーによって用語が異なります)を使用した場合、プリセットはホストによって BassStation の”ローカル”メモリーにロードされるだけになります。ロードされたプリセットを完全に保存したい場合は BassStation のメモリーに書き込まなければなりません。これはマニュアルでなければなりません。しかし AUTO WRITE スイッチを使用した場合、プリセット/セッティングなどがロードされると常に自動的に BassStation のメモリーに書き込まれるようになります。

プリセット/バンクロードの詳細に関してはそれぞれのシーケンサーマニュアルをご参照ください。

また、サウンドをエディットしてその結果がオリジナルよりも悪くなり、さらにその編集を止めて他のサウンドを選択してしまった場合、この AUTO_WRITE が ON になっていると、悪い結果のサウンドが保存されオリジナルが消えてしまいます！

上記のような事故が起こらないように気をつけていさえすれば AUTO_WRITE は非常に便利な機能です。

NUMPAD スイッチ

このスイッチを ON にすると、プログラム選択の際コンピューターのテンキーを使用できるようになります。

注意:シーケンサーによっては再生、停止、ロケート機能がテンキーにアサインされている場合があります。シーケンサーによってはテンキーの機能を目的に応じてアサインし直すことができます。

メモリー-----



3つのボタンにメモリーに関する機能が振り分けられています。

RESTORE

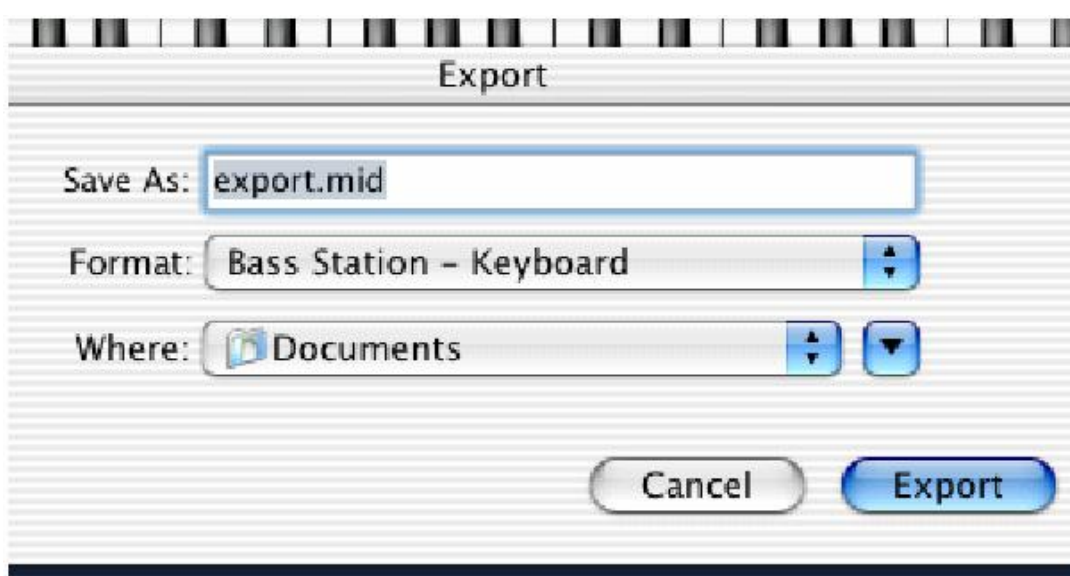
RESTORE ボタンを押すとファクトリープリセットにレストアされます。このとき現在選択しているプログラムを

レストアするのかプログラム全てをレストアするのかを訊かれますので、適当なほうを選択してください。その後さらに“Are you sure?”と確認してくるので CANCEL か OK をクリックしてください。

注意: RESTORE 処理は BassStation 内にあるサウンドを完全に工場出荷時に戻してしまう機能でアンドゥすることができません。エディットした音色を消さないように気をつけて使用してください。

IMPORT/EXPORT

BassStation はキーボード/ラック BassStation からサウンドをインポートすること、及び MIDI ファイルでエクスポートしそれを使ってサウンドをキーボード/ラック BassStation にダンプすることができます。また、EXPORT 機能を使用して BassStation 内部のサウンドをバックアップして個人のライブラリーを作ることができます。エクスポートするには EXPORT をクリックしてください。するとファイル名、保存場所、そして BassStation キーボード/ラックのどちらのファイルフォーマットにするかの選択を行います。



それぞれ適当なものを選択して EXPORT をクリックしてください。これでエクスポートが行われ、MIDI ファイルが生成されました。

BassStation プラグインにサウンドをインポートするには、まず上書きして消してしまうプログラムを選択してください。その状態で IMPORT をクリックするとポップアップウィンドウが表示されます。インポートしたいファイルを選択して IMPORT ボタンをクリックしてください。数秒後に BassStation プラグインの LCD にインポートが完全に終わったことを告げるメッセージが表示されます。

ハードウェアへのインポートに関してはハードウェア BassStation のマニュアルをご参照ください。

ファクトリープログラムリスト

Prog No.	Name	Prog No.	Name
0	Moog Bass	50	Single Osc Lead
1	Wow 1 Bass	51	Sync Up Lead
2	Jacko Bass	52	DnB Bass
3	Soft Bass	53	Porta Bass
4	Electric Bass	54	Sync Down Lead
5	Birdland Bass	55	Q Lead
6	Percussive Bass	56	Biaow Bass
7	Eow Bass	57	Interval Lead
8	Power Bass	58	Do Stay Lead
9	Freakpower Bass	59	Organic Lead
10	TB303 Autoglide Bass	60	Velo Bend Bass
11	Spit Sine Bass	61	Brassic Lead
12	TB303 Eow Bass	62	Log Bass
13	TB303 Square Bass	63	Popsicle Bass
14	Thud Bass	64	Ripping Lead
15	Ambient Bass	65	Gulp Bass
16	Trance 1	66	70s Funk Lead
17	Trance 2	67	Porta Lead1
18	Spit	68	Techno Bass
19	Rainman	69	Detuned Bass
20	Yazoo Lead	70	Click Sync Lead
21	Organ Bass	71	Squarobilly Lead
22	Clavy Lead	72	LFO Swept Bass
23	Puck Lead	73	Square Bass
24	Lfo Filter Fade Bass	74	Release Lead
25	Square Bass	75	Thin Pulse Bass
26	Wow 2 Bass	76	Knuckles Lead
27	Woweo Bass	77	Noughty Lead
28	hard Sync Lead	78	Sub Bass
29	Square Porta Lead	79	Takebreath Bass
30	Sync 0 Lead	80	Stairway Bass
31	Sync 1 Lead	81	Dr Who is it?
32	PT Power Lead	82	Cheapkey Bass
33	Love Don't'd Lead	83	Get Serious Bass
34	Duck Lead	84	Epic Bass Bass
35	Clav Lead	85	WowTalk Bass
36	Whistle Lead	86	Springit Bass
37	Yaz 2 Lead	87	Sussit Bass
38	Sync 3 Lead	88	DirtySink Lead
39	Resonant Lead	89	Retro Bass
40	Early Bass	90	Weeow LeadBass
41	Fuzz Bass	91	Broken Race Car
42	Ripe Bass	92	Spinning Drunk
43	Aftertouch Lead	93	Simple Pulse
44	92 Lead	94	Inside Robot
45	Tinky Lead	95	Porta Lead2
46	Subtle Bass	96	Sweet Lead
47	Click Lead	97	Bounce Bass
48	Blitz Kid Lead	98	Bootit Bass
49	70s Funk Bass	99	Use it up Bass

CONTROLLER #	FUNCTION
1	Modwheel
2	Breath
5	Portamento
7	Master Volume
16	LFO speed
17	LFO delay
18	LFO sync rate
20	OSC1 env mod depth
21	OSC1 lfo mod depth
22	OSC1 PWM mod depth
23	OSC2 semitone tune
24	OSC2 fine tune
25	OSC2 env mod depth
26	OSC2 lfo mod depth
27	OSC2 PWM mod depth
28	OSC1/2 mixer level
35	Filter LFO mod depth
64	Sustain pedal
105	Filter cutoff frequency
106	Filter resonance
107	Filter env mod depth
108	Amp env attack
109	Amp env decay
110	Amp env sustain
111	Amp env release
112	Amp env velocity mod
114	Mod env attack
115	Mod env decay
116	Mod env sustain
117	Mod env release
118	Mod env velocity mod